

- 問1 13世紀にモンゴル高原を中心に勢力を拡大し、フビライ・ハンが建てた帝国を何という？
- 問2 時宗の僧である一遍が、念仏を唱えながら踊ることで信仰を広めた形式を何という？
- 問3 鎌倉時代の力強い武士の気風を反映し、東大寺南大門に安置されている、運慶らによって作られた有名な彫刻を何という？
- 問4 鎌倉時代の武士の間で行われていた、子どもたちに領地を分け与える相続方法を何という？
- 問5 鎌倉時代、執権の北条泰時が制定した法律を何という？
- 問6 13世紀にモンゴル帝国を築き、後に日本へ侵攻を企てた人物は誰？
- 問7 鎌倉時代に新しい仏教の一派である「時宗」を開き、布教活動を行った僧侶を何という？
- 問8 鎌倉時代に臨済宗を日本に伝えた僧侶は誰？
- 問9 『東方見聞録』を記した、モンゴル帝国のフビライ=ハンのもとを訪れたイタリアの旅行家は誰？
- 問10 鎌倉時代に広まった仏教の新しい宗派の一つで、ひたすら座る修行を行うことを重視した宗派を何という？
- 問11 鎌倉幕府が京都の監視や西国の統治を目的として設置した機関を何という？
- 問12 鴨長明が活躍し、古典文学が発展した時期を何という？
- 問13 元寇の際、二度にわたる暴風雨によって元軍が退却したことから、日本を守ったとされる信仰を何という？
- 問14 鎌倉時代後半、分割相続によって領地が細分化し、経済的に苦しくなった状態を何という？
- 問15 鎌倉時代、源頼朝が全国の荘園や公領の管理・年貢徴収をさせるために設置した役職を何という？
- 問16 東大寺南大門の金剛力士像などを制作した、鎌倉時代の有名な仏師は誰？
- 問17 平氏の栄枯盛衰を描き、琵琶法師によって語り継がれた軍記物語を何という？
- 問18 承久の乱において、倒幕を狙って挙兵した上皇は誰？
- 問19 鎌倉時代の将軍と御家人の間の「御恩」と「奉公」によって成り立つ結びつきを何という？
- 問20 『枕草子』や『方丈記』と並び、日本文学における重要な3つの随筆をまとめて何という？
- 問21 鎌倉時代、朝廷やその有力な支援者たちが支配していた土地を何という？

## 答え合わせ・解説

問1	答え モンゴル帝国	五代皇帝フビライ・ハンは、都を現在の北京である大都に移し、中国全土を支配下に置くために国号を「元」と決めました。このモンゴル帝国は、東西の交通路を整備し、シルクロードを通じた交流を活発化させました。また、強大な軍力を持って周囲の国々に服属を要求しました。
問2	答え 踊り念仏	「踊り念仏」は、楽器の音に合わせて歌い踊りながら念仏を唱えるという、非常に活動的な布教の形です。視覚的・聴覚的に人々に訴えかけるこの方法は、当時の民衆にとって非常に魅力的でした。
問3	答え 金剛力士像	東大寺南大門に安置されている金剛力士像は、運慶や快慶らによって作られました。筋肉の隆起や力強い表情など、非常に写実的かつダイナミックな表現が特徴であり、当時の力強い武士の精神性が彫刻にも表れています。
問4	答え 分割相続	当時の武士社会では、家督を継ぐ長男だけでなく、他の兄弟にも領地を分ける分割相続が一般的でした。これにより、相続のたびに個々の武士が持つ土地が細分化され、一つの家が持つ経済力が低下していきました。
問5	答え 1232	この法律は、それまでの習慣を基礎とし、武士社会の道理に基づいて裁判を行うための基準を明確にしたものです。これにより、幕府による全国的な裁判の公平性が保たれるようになりました。
問6	答え フビライ	第5代皇帝フビライ・ハーンは国号を「元」と改め、大都（現在の北京）を拠点に東アジアの覇権を握ろうとしました。彼は日本に対しても外交使節を派遣して服属を求めましたが、幕府がこれを拒否したため、1274年の文永の役と1281年の弘安の役という2度の遠征軍を日本に送りました。
問7	答え 一遍	一遍は浄土教の一派である時宗を開きました。彼は諸国を旅しながら、念仏を唱えて踊る「踊念仏」や、念仏を記した札を配る「賦算（ふさん）」といった活動を行い、身分を問わず広く信仰を集めました。彼の活動記録は「一遍上人絵伝」として残されています。
問8	答え 栄西	栄西は二度中国へ渡り、そこで修行して帰国後に臨済宗を伝えました。彼は座禅によって悟りを開くことを説き、武士たちの間に広く支持されました。また、宋からお茶の種を持ち帰ったことでも有名です。
問9	答え マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロはヴェネツィア出身の商人であり、中央アジアを通して元の都（大都）へ渡り、フビライ＝ハーンに仕えました。帰国後に投獄された際、同房の人物に語り聞かせたアジアの記録が『東方見聞録』としてまとめられました。
問10	答え 曹洞宗	曹洞宗は、宋から帰国した道元が日本に伝えた宗派です。特定の経典や修行にとらわれず、ただひたすらに座禅を組む「只管打坐（しかんたざ）」を修行の中心に置きました。この教えは、地方の武士や農民にも広く浸透していきました。
問11	答え 地方行政機関	1221年に六波羅探題が置かれ、そこには北条氏の一族が就任しました。単なる軍事施設ではなく、朝廷との交渉、京都の治安維持、西国の御家人の統率といった行政・司法の役割を担いました。
問12	答え 鎌倉時代	この時代には、戦乱の不安や厳しい生活環境を背景に、無常観を混えた文学が発展しました。鴨長明の『方丈記』のように、世の移り変わりや自然の厳しさを冷静に見つめる作品が数多く書かれました。
問13	答え 神風	1274年の文永の役、1281年の弘安の役のいずれにおいても、暴風雨により元軍の船が沈没し、撤退を余儀なくされました。人々は、これを天が日本を守るために吹かせた特別な風であると信じ、「神風」という考え方が広まりました。
問14	答え 困窮	限られた土地からの収穫だけでは、幕府への奉公や軍役の準備、生活費を賄うことが困難になり、多くの御家人が借金をして苦しい生活を送るようになりました。
問15	答え 地頭	1185年、頼朝は朝廷から各地への「地頭」の設置を認めさせました。地頭は、荘園や公領において年貢の取り立てや、土地の管理・警察的な役割を担いました。これにより、幕府の権力が全国各地に及ぶようになり、武士が実質的な地方支配の主役となりました。
問16	答え 運慶	「運慶」は、奈良の東大寺南大門に安置されている巨大な「金剛力士像」を、快慶らと共に制作した仏師です。筋肉の動きや表情までリアルに再現する写実的な作風は、当時の人々に衝撃を与えました。
問17	答え 平家物語	『平家物語』は、平氏一族の栄華から壇ノ浦での滅亡までを描いた文学作品です。「祇園精舎の鐘の声」という有名な書き出しで始まり、無常観あふれる物語として広く親しまれました。盲目の琵琶法師が琵琶を奏でながら語り伝える形式で広まったため、多くの人々に愛唱されました。
問18	答え 後鳥羽上皇	後鳥羽上皇は、北条義時討討の院宣を出し、全国の武士に呼びかけて幕府打倒を試みました。しかし、北条政子の演説により結束した幕府軍の前に敗北しました。
問19	答え 主従関係	主従関係とは、将軍が土地を保障する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」が対になったものです。この契約的な関係により、将軍は御家人を束ね、軍力を維持しました。土地を媒介として「御恩と奉公」を繰り返すことで、幕府は全国の武士を支配下に置くことができました。
問20	答え 三大随筆	『枕草子』（清少納言）、『方丈記』（鴨長明）、『徒然草』（吉田兼好）の3つを総称して「三大随筆」と呼びます。それぞれ平安時代中期、鎌倉時代初期、鎌倉時代末期に執筆されました。
問21	答え 貴族	貴族は、朝廷の官職に就くことで権力を持ち、経済基盤として荘園を経営していました。鎌倉時代に入り、武士による政治（幕府）が成立すると、貴族の政治的影響力は徐々に低下していきましたが、京都を中心に高度な文化を保持し続けました。